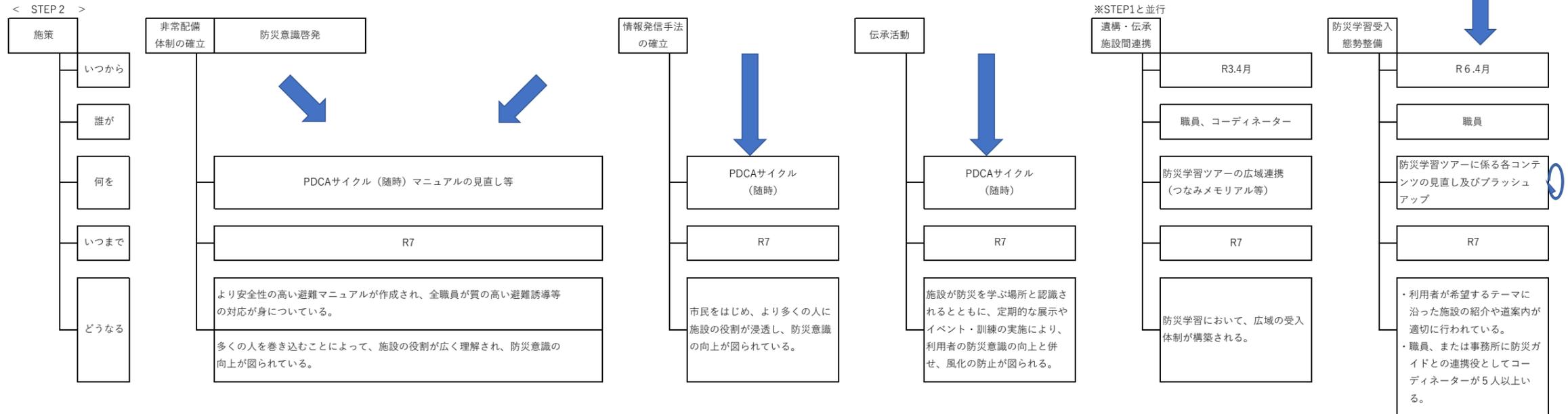
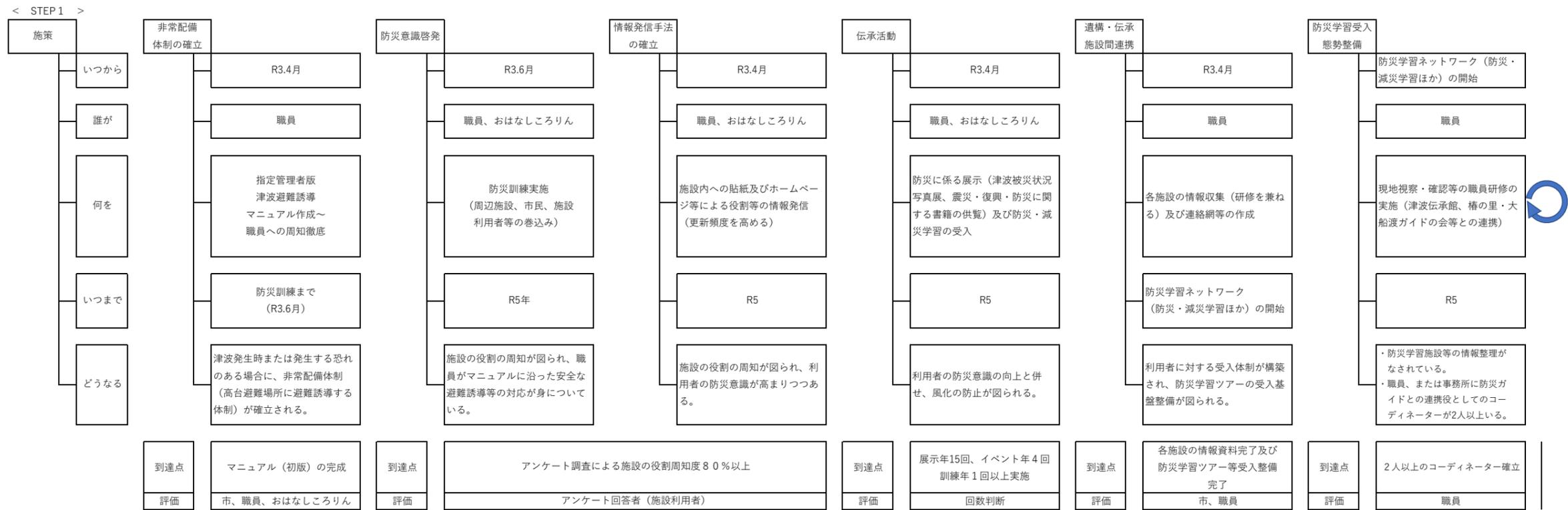


おおふなぼーとの戦略ロードマップ

[防災意識啓発の発信及び防災学習ツアー等の受入拠点施設]

- 概念
 - ・災害の教訓や防災を学ぶ交流拠点づくり
- 中長期将来像
 - ・質の高い避難誘導体制が確立されている安全性の高い施設。
 - ・利用者が施設の役割を学ぶことのできる防災学習施設。
 - ・職員、または事務所に防災ガイドとの連携役としてコーディネーターが5人以上いる。
 - ・防災学習に向けた情報収集、整理がなされ職員等で共有化が図られ、ツアーメニューを提供できる。
- 実施目標
 - ・質の高い避難マニュアルの完成（より現実性のある避難マニュアル）
 - ・施設の役割の認知度80%以上（毎年行うアンケート調査で評価）
 - ・おおふなぼーと発信の防災学習：展示15回、イベント・訓練5回、ほか防災・減災学習受入等（随時）
 - ・ひととおり防災ガイドができる職員の人数：5人
- ターゲット
 - ・おおふなぼーと従事者
 - ・施設利用者及び市民
 - ・震災学習旅行者及び観光客



おおふなぼーとの戦略ロードマップ

[防災意識啓発の発信及び防災学習ツアー等の受入拠点施設]

< STEP 1 >		非常配備体制の確立	防災意識啓発	情報発信手法の確立	伝承活動	遺構・伝承施設間連携	防災学習受入態勢整備
施策							
何を		指定管理者版津波避難誘導マニュアル作成～職員への周知徹底	防災訓練実施(周辺施設、市民、施設利用者等の巻き込み)	施設内への貼紙及びホームページ等による役割等の情報発信(更新頻度を高める)	防災に係る展示(津波被災状況写真展、震災・復興・防災に関する書籍の供覧)及び防災・減災学習の受入	各施設の情報収集(研修を兼ねる)及び連絡網等の作成	現地視察・確認等の職員研修の実施(津波伝承館、椿の里・大船渡ガイドの会等との連携)
誰に		職員	利用者	利用者	利用者	職員	職員
いつまで		防災訓練まで(R3.6月)	R5年	R5	R5	防災学習ネットワーク(防災・減災学習ほか)の開始	R5
到達点		マニュアル(初版)の完成	アンケート調査による施設の役割周知度80%以上		展示年15回、イベント年4回 訓練年1回以上実施	各施設の情報資料完了及び防災学習ツアー等受入整備完了	2人以上のコーディネーター確立
進捗		R4.6.19(初版)完成 CLEAR ⇒ STEP2へ	R4: 69% (R2: 81%、R3: 80%) ⇒ STEP1継続		R4: 展示20回、イベント16回 訓練1回 ⇒ STEP2へ	専属コーディネーターの配置待ち ⇒ STEP1継続	コーディネーター可能な人材3人 ⇒ STEP2へ

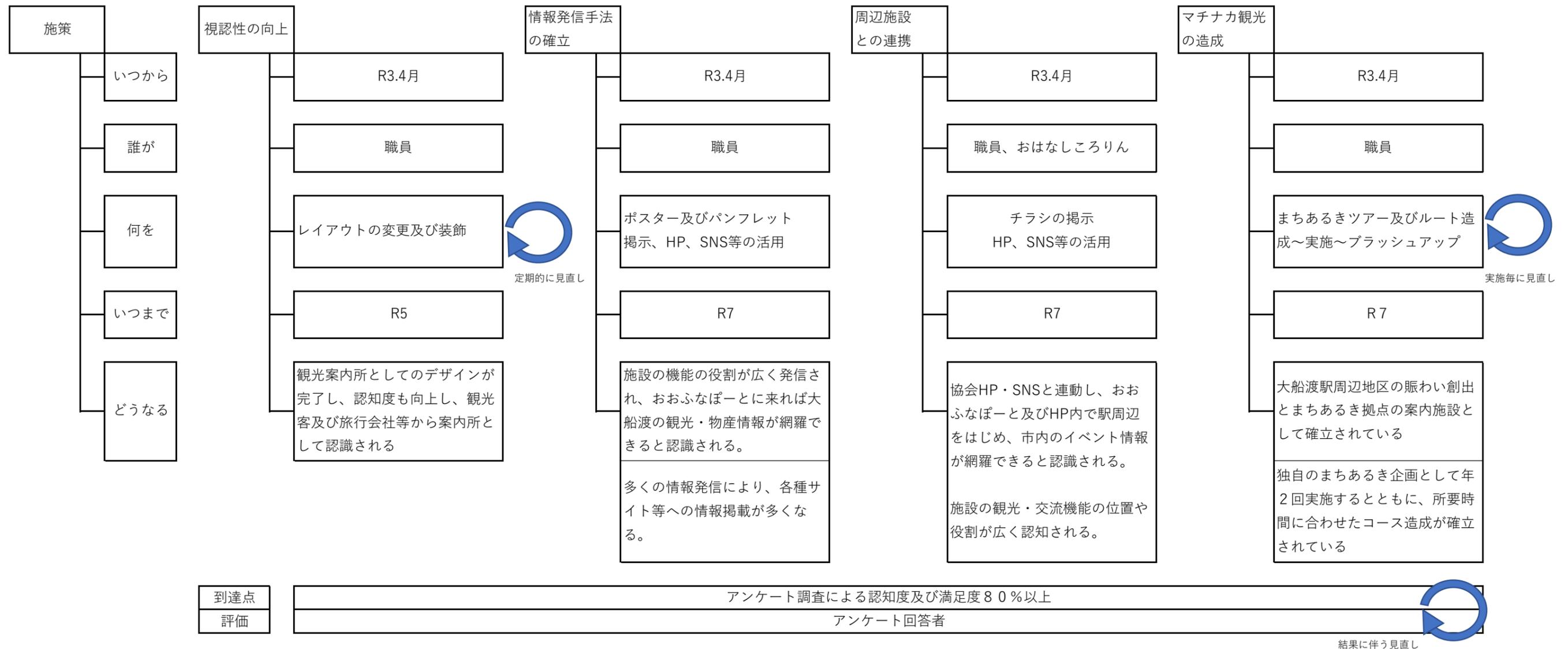
< STEP 2 >		非常配備体制の確立	防災意識啓発	情報発信手法の確立	伝承活動	※STEP1と並行 遺構・伝承施設間連携	防災学習受入態勢整備
いつから						R3.4月	R6.4月
誰が						職員、コーディネーター	職員
何を			PDCAサイクル(随時)マニュアルの見直し等	PDCAサイクル(随時)	PDCAサイクル(随時)	防災学習ツアーの広域連携(つなみメモリアル等)	防災学習ツアーに係る各コンテンツの見直し及びブラッシュアップ
誰に			職員、利用者	利用者	利用者	職員	職員
いつまで			R7	R7	R7	R7	R7

< できたこと >		非常配備体制の確立	防災意識啓発	情報発信手法の確立	伝承活動	遺構・伝承施設間連携	防災学習受入態勢整備
R4			避難マニュアル(初版)の作成及びそれに基づいた避難訓練の実施。	施設内への貼紙及びホームページへの役割等の情報掲載	防災ウィークの実施(3月) おはなしころりん、津波伝承館による防災展示の実施(適宜)	各施設の情報資料設置 防災学習ツアー等受入	防災ウィーク等、職員の現地視察及び確認
R5							
R6							
R7							
最終到達点			より安全性の高い避難マニュアルが作成され、全職員が質の高い避難誘導等の対応が身についている。多くの人を巻き込むことによって、施設の役割が広く理解され、防災意識の向上が図られている。	市民をはじめ、より多くの人に施設の役割が浸透し、防災意識の向上が図られている。	施設が防災を学ぶ場所と認識されるとともに、定期的な展示やイベント・訓練の実施により、利用者の防災意識の向上と併せ、風化の防止が図られる。	防災学習において、広域の受入体制が構築される。	・利用者が希望するテーマに沿った施設の紹介や道案内が適切に行われている。 ・職員、または事務所に防災ガイドとの連携役としてコーディネーターが5人以上いる。

おおふなぼーとの戦略ロードマップ

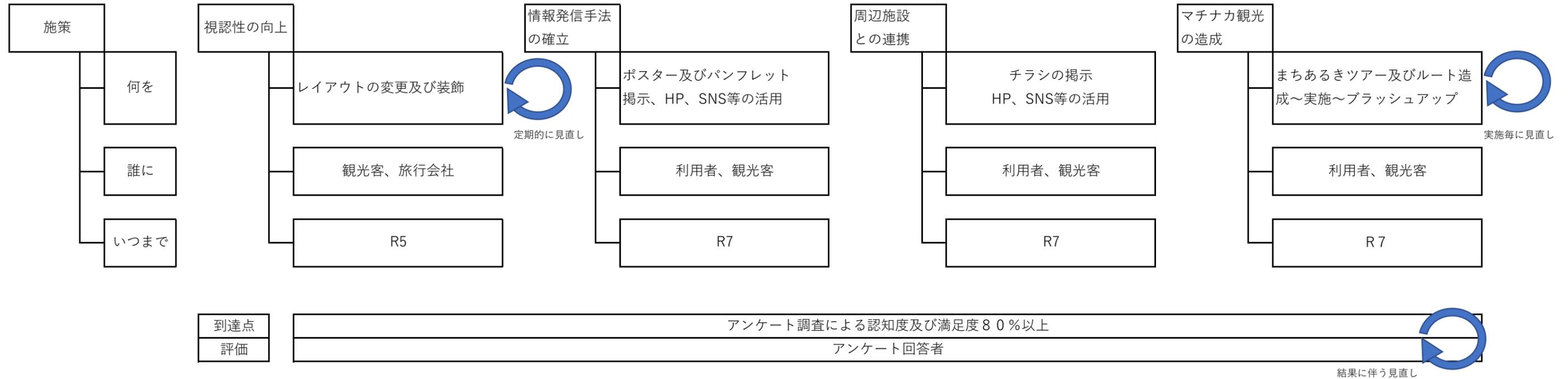
[観光情報の発信施設 / まちあるきの拠点案内施設]

- 概念
 - 大船渡の魅力・文化を伝える観光拠点づくり
- 中長期将来像
 - 「観光情報の発信施設」
 - ・施設の防災・観光・交流機能の位置や役割が広く認知され、観光案内所として認識できる状態となる。
 - ・各種サイトに観光案内所として掲載されている。
 - ・協会HPやSNSと連動し、大船渡駅周辺を中心に、市内の観光情報を網羅しているサイトとして確立されている。
 - 「まちあるきの拠点案内施設」
 - ・指定管理者の企画によるおおふなぼーとを起点とした「まちあるきコース」が確立され、まちの賑わい創出に寄与している。
- 実施目標
 - ・観光案内所として視認できる（看板・装飾を完了している）
- ターゲット
 - ・観光客及び市民



おおふなぼーとの戦略ロードマップ

[観光情報の発信施設 / まちあるきの拠点案内施設]



< できたこと >

R4	<ul style="list-style-type: none"> ぼーと屋外へのぼり旗設置 エントランスホールのレイアウト変更 カウンターへの職員配置 	HP、SNS等を活用した施設の役割、イベント情報発信	イベントチラシの相互配架 イベントへの人員協力 HP、SNS等を活用した情報発信	防災ウィーク内の防災×観光アドベンチャーゲームの実施
R5				
R6				
R7				
最終到達点	観光案内所としてのデザインが完了し、認知度も向上し、観光客及び旅行会社等から案内所として認識される	施設の機能の役割が広く発信され、おおふなぼーとに来れば大船渡の観光・物産情報が網羅できると認識される。 多くの情報発信により、各種サイト等への情報掲載が多くなる。	協会HP・SNSと連動し、おおふなぼーと及びHP内で駅周辺をはじめ、市内のイベント情報が網羅できると認識される。 施設の観光・交流機能の位置や役割が広く認知される。	大船渡駅周辺地区の賑わい創出とまちあるき拠点の案内施設として確立されている 独自のまちあるき企画として年2回実施するとともに、所要時間に合わせたコース造成が確立されている

おおふなぼーとの戦略ロードマップ

[関係者との用務連携体制の濃い施設]

○ 概念

幅広いネットワークを活用した用務連携体制の構築

○ 中長期将来像

・市内外の防災、商業、観光に関連する多くの団体（協議会）等と情報交換や業務連携ができています。

○ 実施目標

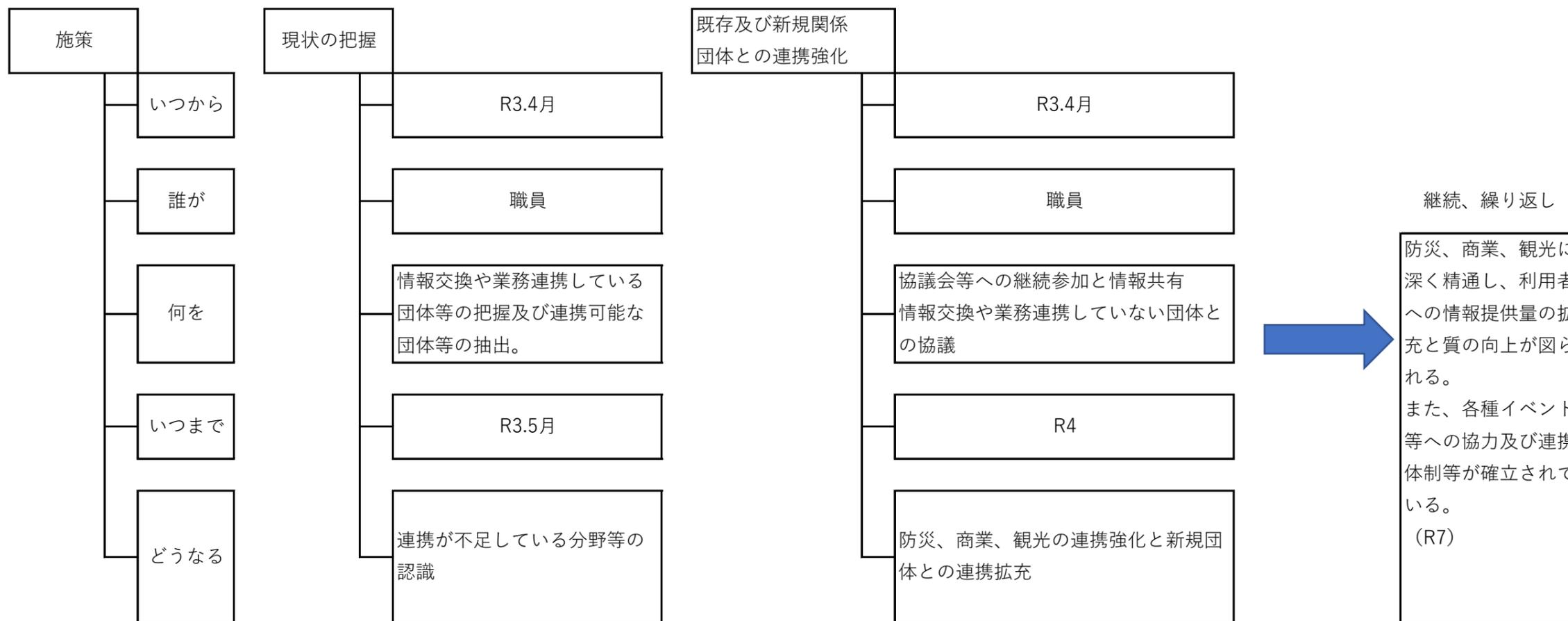
- ・情報提供量の拡充と発信する情報の質の向上。
- ・イベント等における協力及び連携体制の確立。

○ ターゲット

市内外の防災、商業、観光に関連する多くの団体（協議会）等

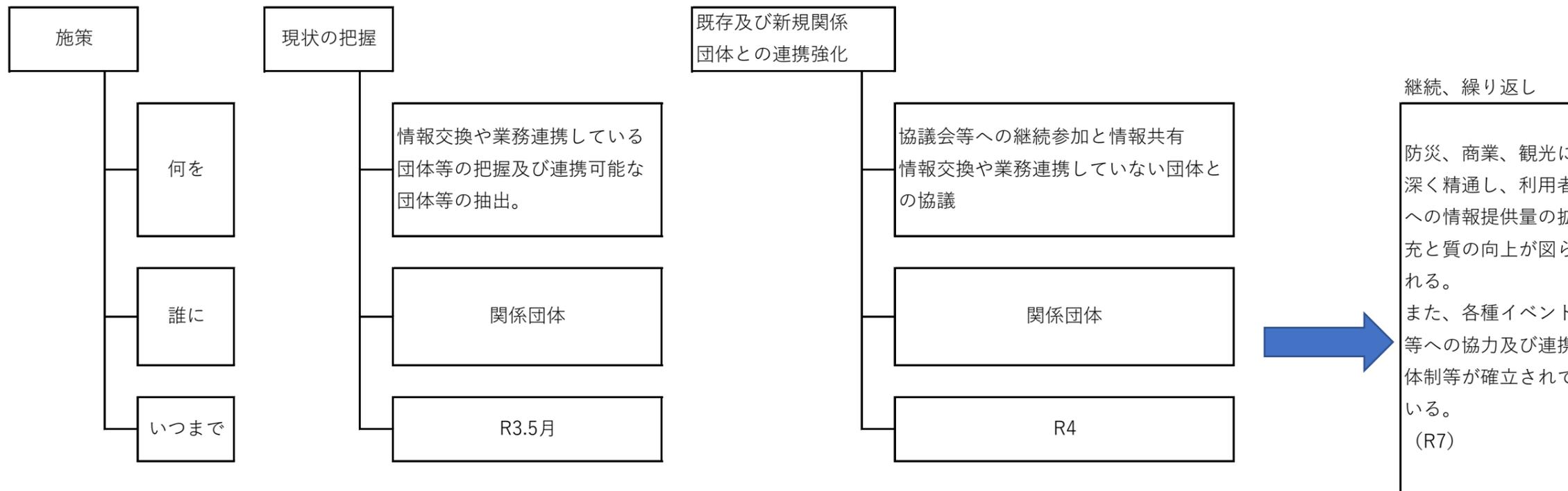
※ R2年度までの実績

- ・（一社）大船渡地域戦略
- ・みなとオアシスおおふなと運営協議会
- ・大船渡町内商店連絡会議
- ・その他、市及び会議所等が事務局を有する各実行委員会



おおふなぼーとの戦略ロードマップ

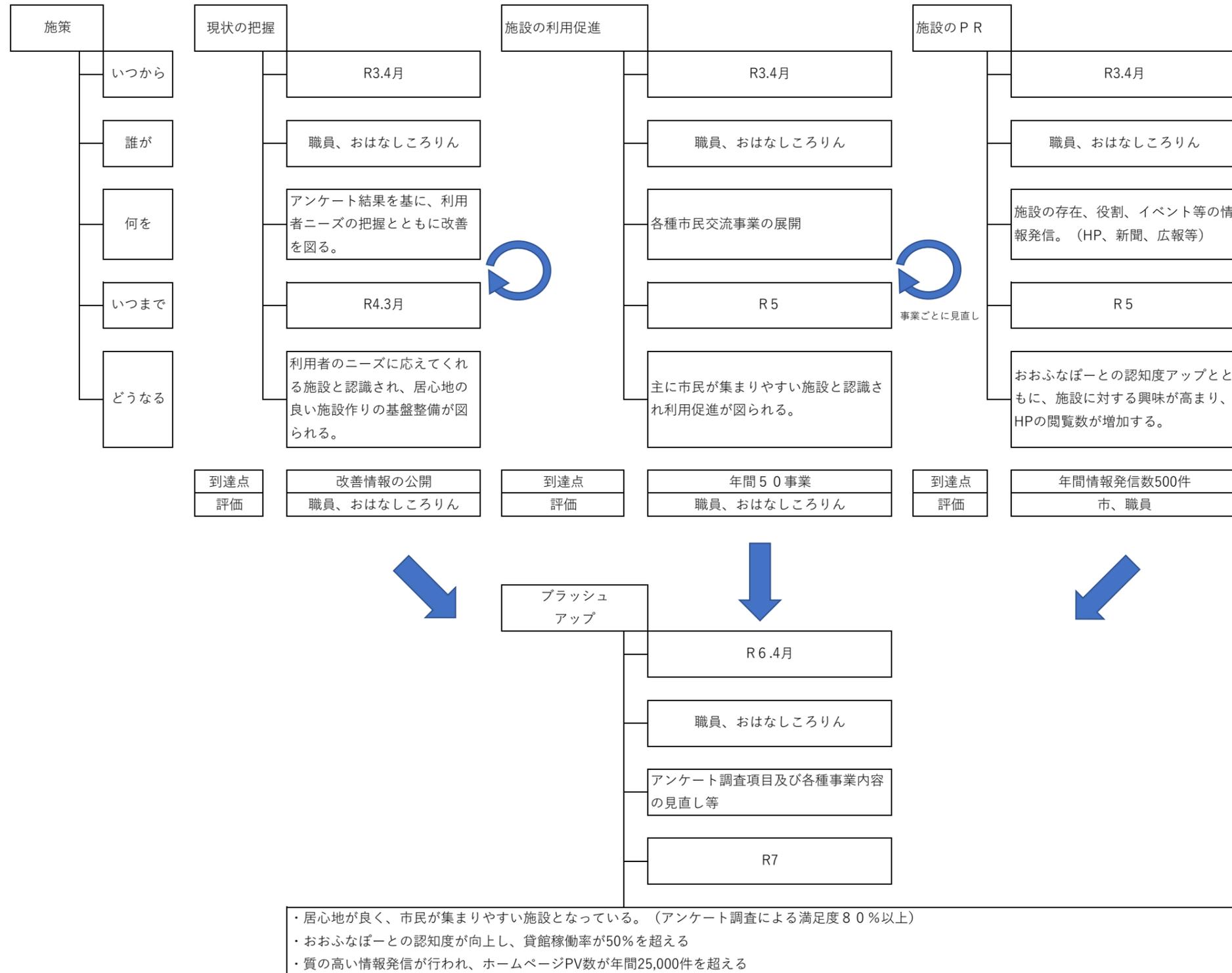
[関係者との用務連携体制の濃い施設]



おおふなぼーとの戦略ロードマップ

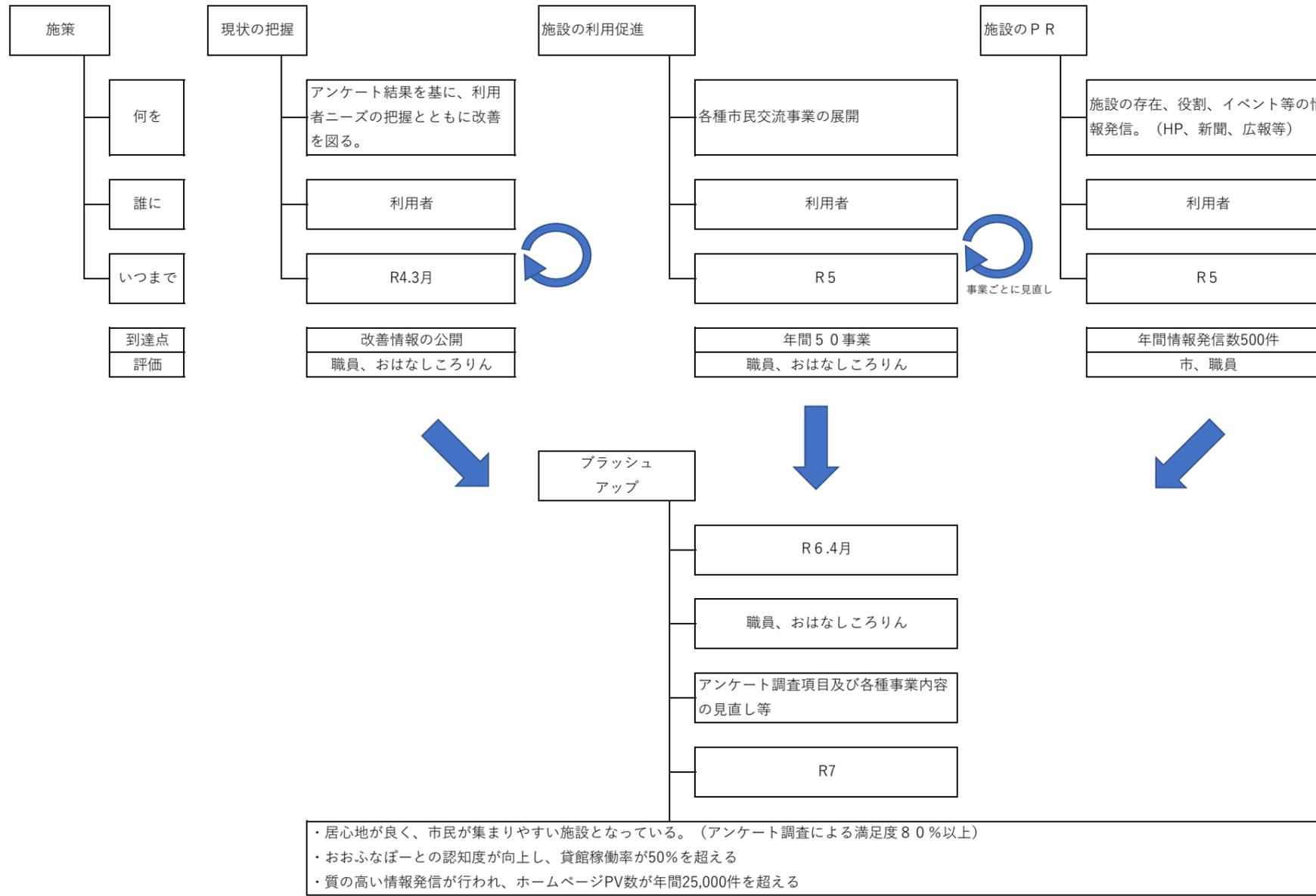
[市民交流や地域づくりの場の創出施設]

- 概念
多世代の交流・憩い、活動、情報発信の場の創出
- 中長期将来像
・市民交流や地域づくりの場の機会が増える。
- 実施目標
・おおふなぼーとの貸館稼働率50%（年間）
- ターゲット
全ての利用者



おおふなぼーとの戦略ロードマップ

[市民交流や地域づくりの場の創出施設]



< できたこと >

R4	アンケート実施に伴うニーズの把握及び意見に対する改善	自主事業及びおはなしころりん連携し、年間105事業の実施。	HP、SNS等を活用した施設の役割、イベント情報発信
R5			
R6			
R7			
最終到達点	利用者のニーズに応えてくれる施設と認識され、居心地の良い施設作りの基盤整備が図られる。	主に市民が集まりやすい施設と認識され利用促進が図られる。	おおふなぼーとの認知度アップとともに、施設に対する興味が高まり、HPの閲覧数が増加する。